



# 須留が峰



校訓 「自立 協同 創造」  
校是 「生きるとは 分かちあうこと」  
養父市立養父中学校 学校だより  
(令和7年12月24日) 第33号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

## 人権集会を通して

12月9日(火)に開催した人権集会を通して、生徒たちには深い学びがあつたようです。自らの心や行動を見つめ直したという感想を中心にして生徒の“学びの声”を一部ではありますが以下に紹介します。



- ・3人の意見発表で戦争のことや差別・イメージでの決めつけの話を聞き、自分では気づいていないいじめ・差別などをしているかもしれないと思い、自分の中で考えました。
- ・人権映画のシーンで、「私もそうなるよな」と思ってしまうことがありました。例えば、「お年寄りが割り込んでくる」「小さい子がわちゃわちゃしている」など世の中ではよくあることなのに、「面倒くさい」と感じてしまうことです。
- ・私は人権集会を通して、命の大切さをあらためて感じたし、「人権」についてとても考えさせられました。イメージや偏見での決めつけ、周りに流されてしまうこと、いじりからのいじめ、どれも身近なことだからこそ気をつけていきたいと思いました。
- ・自分の違う意見をもっている人を否定するのではなくて、自分と違う意見だからこそ、それもしっかりと受け入れることが大切だとすごく思いました。
- ・私はお年寄りの人は、「汚いな」や「近寄りたくないな」と思っていました。でもそれは一人一人を尊重する気持ちがないからそのようなことを思っていました。
- ・人権について考えることは、世界が平和になるための第一歩だと思います。この人権集会の人権についての意見、人権についての映画で人権についての考えを深めることができました。
- ・僕はこれを機に、偏見を持ったり、勝手な印象をもったりするのはやめようと思いました。また、表に出ている情報だけで決めつけることは良くないといったことを考えました。
- ・もし相手に嫌な思いをさせてしまうと、謝っても許してもらえないこともあるため、慎重に行動することが大切だと思った。
- ・自分の勝手な判断やイメージで決めつけることは、相手が必ず悲しむし、いつか自分に悪い噂や偏見をもたれてしまうかもしれないことを常に考えていきたいです。
- ・トライヤー・ウイークで保育園に行き、「この子はこんな子なんだろうな」と考えたけれど、話してみると全然違う子のほうが多いかったです。これからは「偏見」という言葉には気をつけたいです。
- ・人に聞いただけでは調べることをせずに流されてしまうのは良くないと思いました。よく考えてみたら私も人に流されたり、言われたことをすべて信じてしまったりするタイプなので、本当に気をつけようと思いました。
- ・私は人の普通って何なのかと問われたら普通は「存在しない」と断言できます。「普通は○○やから」とか言いますが、人間に対して普通は一番似合わない言葉だと思います。
- ・偏見を持って物事を判断していたのである。恥ずかしいと思った。この考えをしている自分が。自分は悪く思っていないなくても、失礼にあたることもある。あらためてそう学んだ良い機会だった。
- ・この人権集会で、人への気持ち、人への思いやり、人権・言語の壁などは関係なく少しの行動で変わることを知り、自分も(人権集会で見た)映画の内容のように変わっていけたらなあと思いました。

# 令和7年度2学期終業式式辞

「2学期の始業式では、

“さあ、2学期の始まりです。2学期には、体育大会、そして、文化祭も予定されています。まさに、スポーツの秋、芸術の秋となりますように皆さん一丸となって養父中学校を盛り上げていきましょう。”

と話をしました。振り返ってみると、皆さんのかにより、たいへん盛り上がった秋になったように思っています。

まずは、体育大会。みんなで踊ったダンスをはじめとして、各種目・各演技で最高のパフォーマンスを見せてくれて、思い出に残る感動的な体育大会となりました。また、文化祭の合唱コンクール。どのクラスも一生懸命に練習し、最高の歌声を聞かせてくれました。それに加えて、新しい取組である「Ted talks」では、多くの生徒が舞台上でしっかりと自らを表現してくれました。

さらに、10月に実施した校内マラソン大会では、成績上位の生徒も、下位の生徒も、自分ひとりの責任で最後まで必死にゴールをめざして走りましたし、その後開催された但馬中学校駅伝競走大会に多くの生徒がエントリーをして、養父中学校から男女2チームずつが出場しました。その中で男子チームが県大会に進出したことも大きな喜びでした。

いっぽう、芸術・文化面での活躍もめざましく、理科の自由研究、読書感想文、税の作文、人権作文、書道、絵画、短詩系文学などのコンクールに多くの生徒が出品し、その結果、優秀な成績を収めた人が多く出ました。

日常の学校生活に目を向けてみると、授業中に手を挙げて発表したり、グループでしっかりと話し合ったりする姿をよく見た2学期であったように振り返ります。また、朝活動における『聴くトレ』や『熟語しりとり』『読考書』などにも真剣に取り組むことができました。

さて、私は、これらのことから今年の2学期は高く評価したいと思っていますが、皆さんは2学期をどのように振り返りますか。もしかしたら、自分は各行事や部活動などあまり活躍できなくて実は悔しい2学期だったという人も居るかもしれません。また、学習成績があまり伸びないために面白くない2学期だったという人もいるかもしれません。さらには、ゲームに時間を費やしてしまい、実は後悔の2学期であったという人もいるかもしれません。中にはインフルエンザにかかってしまって苦しい思いをしたという人もいるかもしれません。もし反省点が残るとするならこの冬休みの間にしっかりと自分を見つめ直してもらえたると思います。

『一年の計は元旦にあり』と言い、日本では昔から年の初めを大切にしてきました。皆さんの3学期が素晴らしいものになることを期待して、2学期終業式の式辞とします。」

※保護者の皆様におかれましては、学校への温かいご支援、まことにありがとうございました。

※2学期は80名の生徒が無欠席・無遅刻・無早退でした。よく頑張りました。

※12月29日～1月3日は学校閉庁とします。ご了承ください。

※どうぞ皆様、良いお年をお迎えください。

